

## 第39回中川村リニア中央新幹線対策協議会 会議録



期 日 令和6年12月19日(木) 午後7時00分～8時30分

場 所 中川村役場 基幹集落センター 集会室

### 出席者

- ・対策協議会委員 18人(18人中欠席者0人)
- ・J R 東 海 10人(うちJV3人)
- ・長 野 県 7人(伊那建設事務所2人、飯田建設事務所5人) ※以下「伊建」「飯建」
- ・村 関 係 者 4人
- ・マ ス コ ミ 3人

### 1 開会

事務局 こんばんは。

定刻となりましたので、ただいまから第39回中川村リニア対策協議会を行いますのでよろしくお願いいたします。

資料の確認をいたします。資料1とあります、第38回ではなく、第39回の資料になります。それから、渡場交差点における環境測定結果、それから、工事カレンダー、あと資料2、3がありますので、確認をお願いします。

大変申し訳ありませんが、携帯電話をお持ちの方は、電源をお切りになるか、マナーモードに設定をお願いします。

それでは会長、挨拶をお願いします。

会長 はい。あらためましてこんばんは。

年末が近く、委員のみなさま何かとお忙しいところにお集まりいただき大変ありがとうございます。

前回、9月22日だったと思いますけれども、土曜日の開催でありました。半の沢の盛土造成の現状を視察し、帰ってから、この場で協議会を開催するという非常に忙しいスケジュールでありました。委員のみなさまはそうでありませけれども、長野県、J R 東海のみなさんには対応いただきありがとうございました。

まずもってお礼を申し上げます。

協議の中で、そのときでありますけれども、いろんな問題が出されてきております。要望も含めてであります。今日は、J R 東海さん、それから運行ルート of 県道および国道153号を管理し、改良工事等を進めていただいております、飯田建設事務所および伊那建設事務所の関係者の方から、改良工事の進捗の状況、それから関係機関との協議をしている状況等を説明していただいて、協議を進めていきたいというふうに考えております。

当協議会に先立って開かれました、大鹿村のリニア連絡協議会で、小和田地区への発生土の運搬が2年3ヶ月ほど延びる見通しであるという説明がされたようで、これは新聞をご覧になった方もいらっしゃるかと思います。また、小和田だけではなく、遅れというものにつきましては、当然駒ヶ根市の新宮川岸への運搬、これにも影響してくるのかなということも思っておりますし、この点では、ぜひJ R 東海さんの方からの説明をきちんとお願いをしたいと思っております。

年末が間近となっております。関係地区の総代さんにつきましては、地区総会の場で報告すべき事項もあろうかと思っておりますので、年内に結論が出せる課題などは、十分協議をしていただいで、一定の対処方針が本日確認できればよろしいのかなど、こんなふうに考えております。

本日の会議が、後々の問題が少しでもなくなり安全な車両運行や沿線住民の方の良好な住環境の維持に繋がることを関係各位にお願いをいたしまして、協議会冒頭のご挨拶といたします。よろしく申し上げます。

事務局     それでは協議事項以降からは会長の進行でお願いいたします。

会長       はい。それではお手元に次第が行っているかと思っておりますので、記されております協議事項に沿って、進めさせていただきます。

最初に J R 東海さんの方から、工事関係についてご説明をお願いいたします。

J R 東海   みなさん、こんばんは。（一同「こんばんは。」）

本日はお忙しい中、この協議会にご参加いただき誠にありがとうございます。また、みなさまにおかれましては日頃から中央新幹線の建設事業にご理解とご協力いただき、心からお礼を申し上げます、ありがとうございます。

本日、12月19日ということで、2024年もあとわずかになったというところで。今年の長野県内の工事に関するトピックとしては、例えば南木曾町の広瀬というところの斜杭の掘削が始まったり、あるいは喬木村阿島北工区というところも工事着手したというようなこと、また、この中川村では小和田地区基盤整備事業への発生土の活用、これを4月に開始したということ、といったことが挙げられます。いずれのトピックも我々としては大変大きな苦勞の末の結果、成果であって、全てについてとても感慨深いものではあるのですが、一方で地域のみなさまにとっては、我々が感慨にふけている間があれば、どんどん工事を進めてくれよ、ということだというふうに認識しております。

今年は長野県内の多くの工区において、当初お示した工期を超えて工事を行わせていただくというようなご説明をさせていただきました。中川村においても7月の協議会において、大鹿村内のトンネル工事の工期の延伸についてご

説明させていただいたというところです。これは、工事にともなうご不便ご心配おかけする期間が長くなるということ、またリニア中央新幹線の早期の開業を心待ちにされているみなさまのご期待を裏切る形になっているということのところであらためてお詫びを申し上げなければならないというふうに考えております。

中川村をはじめ、多くのみなさまにご心配をおかけしているところでありますが、我々といたしましては、安全に、そして環境に配慮しつつ、何より地域のみなさまとしっかりコミュニケーションをとった上で、全力で工事を進めて参りたいと考えています。引き続きご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

本日はこれまで定期的にご報告しております工事の進捗、環境測定についてご説明いたします。本日も丁寧な説明を心がけますので、どうぞよろしくお願い致します。

J R 東海 みなさま、あらためましてこんばんは。

私の方から、J R 東海工事関係資料 1 について、ご説明をさせていただきます。着座にて失礼いたします。

まず 1 ページ目のタイトルなのですが、第 38 回と記載させていただいておりますが、誤りでございまして、誠に申し訳ございません。第 39 回になりますので、修正のほどお願いいたします。

2 ページ目、本日のご説明内容になります大鹿村内の中央新幹線の工事の進捗状況また工事用車両台数、環境測定の結果、その他についてご説明をさせていただきます。

次のページをお願いいたします。4 ページ目になります大鹿村内の工事の進捗状況についてご説明をさせていただきます。まず除山非常口になりますが、こちらからは平面図の①②のあたりで、先進抗、本抗を品川方静岡方面に向けて掘削をしている状況でございます。

また、地図の③番の付近、小渋川非常口から本抗を品川方東の方に向かって掘削をしております。また、小渋川を挟みまして西側の伊那山地トンネル青木川工区④番こちら付近で本抗を品川方東の方に向かって掘削を引き続き行っている状況でございます。

次のページをお願いいたします。5ページ目になりますが、ただいまご説明をした4ヶ所のトンネル工事の切羽先端付近の施工状況の写真となりますので、ご確認をお願いいたします。

次に下の6ページ目になります。大鹿村内の発生土仮置き場の現状について、ご説明をいたします。まず向かって左側の写真の発生土仮置き場B、三正坊につきましては、土砂の搬出を適宜行っている状況でございます。また右側、発生土仮置き場E、小渋川変電所予定地につきましては、土砂の搬入と搬出を行っている状況でございます。

次のページをお願いいたします。次に工事用車両台数についてご説明をさせていただきます。資料8ページ目になります。まず来年度、令和7年度にかけましての渡場交差点における運行計画について、ご説明をさせていただきます。令和7年度末にかけましては、これまで通り引き続き、資機材運搬としては日最大往復60台を予定しております。また、発生土運搬におきましても、引き続き、現在行っております駒ヶ根市中沢の新宮川岸地区土地改良事業に日往復で260台を年度末にかけて実施をしております。また、小和田地区の基盤整備事業についても引き続き運搬を行ってまいりまして、日往復で400台を予定しております。また、来年の7月以降になりますが、松川町古町地区での松川町事業になります前河原道路新設事業への発生土の運搬、活用を予定しております。前河原道路への運搬開始後につきましては、駒ヶ根市中沢と小和田で計画をしている日最大660台の中で、前河原道路の運搬も行っていくことで計画をしております。なお、これら以外の運搬計画につきましては、発生土の活用先の計画が決定次第、随時ご説明をさせていただきます。

なお、前回の協議会で飯田市での長野県駅工事に大鹿村内で出た要対策土を活用運搬する件について、12月以降、準備ができ次第運搬を開始していくというご説明をさせていただきましたが、現在、長野県駅工事の環境保全に関する手続きを行っている状況でございます。今後、長野県から助言をいただき、その内容を踏まえて準備を行い、その後完了した後に運搬を開始していく予定でございます。

次のページをお願いいたします。9ページ目から次の11ページ目にかけては、先ほどご説明をさせていただきました各発生土活用先の状況・予定についてご説明をさせていただきます。

まず9ページ目の駒ヶ根市中沢の新宮川岸土地改良事業についてでございます。写真の通り、赤い線で囲った範囲が発生土活用範囲でございます。土地改良事業、ほ場整備に発生土を活用いただいている現場でございます。活用量としては約25万立方メートルでございます。中沢への運搬期間につきまして、当初は令和5年の6月から令和7年の夏頃という計画予定でご説明をさせていただきましたが、中沢の事業の法令手続きに遅れが生じたため、工事の着手が遅れたことで、運搬の開始時期が6月から10月にずれた状況です。また、この造成後に行うほ場の設計にも遅れが生じておりまして、それらも踏まえまして、運搬期間が現在、令和7年度末までかかるという予定で工事の方を進めている状況でございます。

次に下の10ページ目になります。小和田地区基盤整備事業についてでございます。こちらについては、赤い実線の範囲が発生土の活用範囲でございます。天竜川からの田んぼへの浸水対策による土地の嵩上げで、約76万立方メートルの発生土を活用いただいている事業でございます。現在は、そのうちの天竜川の一番下流側の赤い点線で囲った区画で、工事が行われておりまして、こちらに随時、発生土を搬入している状況でございます。右上に記載の通り、運搬期間になりますが、令和6年の春から、予定通り着手をしたところでございますが、当初のご説明では、運搬期間の終了が令和9年度末頃というご説明をさせていただきました。しかしながら、今年7月の前々回の対策協議会におきまして、大鹿村内のトンネル工事の遅れについて、ご説明をさせていただきました。このトンネルの工事の遅れにより、土が出てくる期間が延びることにもないまして、小和田地区基盤整備事業への発生土の運搬が伸びることについて、中川村および小和田の関係する地権者のみなさまなどにご相談をさせていただきまして、運搬期間を令和12年の春まで延長させていただく予定に変更いたしました。運搬台数につきましては当初の計画から変更はなく、1日片道で約150から250台のペースで実施してまいります。

次のページをお願いいたします。11ページ目になります。こちらが来年の夏頃から、新たに運搬を予定しております松川町の町道事業の前河原道路新設事業古町地区でございます。場所になりますが、松川町の上新井の交差点から少し南の方に行った林叟院というお寺がある辺りの少し南側の場所になります。

写真の赤く薄く塗った範囲に盛り土して、段丘の下の段と上の段の茶色の町道を繋ぐために、発生土を活用いただく事業となっております。活用土量といたしましては、約13万立方メートルで計画いただいております。前河原道路への運搬期間につきましては、現在、令和7年の夏ごろから令和9年度末までの予定でございます。発生土の運搬及び造成の終了後、道路の新設工事を実施していく計画となっております。ここまでの発生土の活用先のご説明でございまして、以降が直近の工事用車両の台数、工事用車両の通行台数の実績及び予定についてご説明をさせていただきます。

まず12ページ目、資機材運搬についての実績でございます。渡場の交差点をご覧ください。9月から12月にかけては、日往復で約25台から52台程度の実績でございました。

次のページをお願いいたします。次に発生土の運搬車両についてでございます。渡場交差点では9月から12月にかけては、615台から641台通行の実績でございました。また、半の沢道路改築事業への大鹿村内からの発生土運搬につきましては、期間中14台から50台の実績でございました。

次に14ページ目、直近の工事用車両の通行台数の予定についてご説明をさせていただきます。1月から3月にかけては、引き続き、資機材運搬で日最大60台、月別日平均50台で計画をしております。また発生土の運搬につきましては、こちらも引き続き、中沢、小和田に資料の通り、計画をしております。1月下旬以降、半の沢への大鹿村内からの運搬を本格的に開始する見込みで、2月以降は日最大720台、月別平均550台で計画している状況でございます。

次のページをお願いいたします。環境測定の結果についてご説明をさせていただきます。渡場交差点における環境測定の結果について17ページ目から19ページ目、またお手元に別で大きい見やすい資料もご用意しておりますので、見やすい資料の方でご確認をいただければと存じます。

まず17ページ目、二酸化窒素と浮遊粒子状物質についてご説明をさせていただきます。まず、二酸化窒素につきましては、昨年と同様の傾向でございました。

次に下の浮遊粒子状物質についてでございます。前回の協議会で風向風速について、表に加えて欲しいというご意見をいただきまして、赤い折れ線のグラ

フで、右側の軸に記載の通り、平均風速の値を新たに追加いたしました。この値は渡場交差点でこれまで実施していた環境調査では、風向風速の調査ができていなかったため、近傍の調査の結果として、役場で測定していた平均風速の値をグラフの方に追加をいたしました。結果になりますが、まず、9月の上旬の頃に比較的大きな値が見られました。この期間、大鹿村内で同様の調査をしている地点ですとか、飯田市内で長野県が調査をしている結果を確認したところ、同じ期間に同様に高い数値が見られたため、気象による影響ではないかというように推定をしております。その他の値につきましては、昨年と同様の傾向でございました。

次に下の18ページ目、騒音振動についてご説明いたします。まず、上のグラフ、騒音になります。こちらにつきましても、これまでと同様の傾向が確認されましたが、10月3日について、70デシベルを超える値が確認されました。この値の詳細について確認をしたところ、朝の7時頃にかなり大きな値を拾った影響で、70デシベルを超過しているということが確認され、その値を除けば、日中の運搬時間帯については、この日と同じような値でございましたので、この朝の7時頃に、かなり大きな値になったことが原因ということが確認されました。

次に下の振動につきましても、これまでと同様の傾向でございました。

次のページをお願いいたします。19ページ目になりますが、こちらが夜間の騒音振動についてでございます。こちらにつきましても、これまでと同様の傾向でございました。

次に20ページ目、その他となります。その他といたしましては3点ご説明をさせていただきます。まず10月22日に渡場の交差点で交通量調査を行いましたので、その結果の概要について、ご報告をさせていただきます。2点目、今後の工事予定として、来年1年間の工事カレンダーについて、ご説明をさせていただきます。そして最後に、10月28日小渋線で発生しましたダンプの転落事故について、ご報告をさせていただきます。

次のページをお願いいたします。21ページ目です。渡場の交差点におきましては、本格的な工事用車両の通行ですとか、今年の1月から発生土の運搬ルートを切り替えたことにとともないます渡場交差点の交通影響の把握を目的として、10月22日の火曜日に交通量調査を実施いたしました。前回、昨年12月に



調査を行いました。その際と同様渋滞長は発生しませんでした。この渋滞長というのは、赤で溜まった車両が一度の青で全て掃けるという状態です。すなわち1回の信号で行けなかった車両は確認されなかったということで、交差点の交通への影響はないということが確認できました。

次に22ページ目になります。工事カレンダーについてご説明をさせていただきます。別でお配りしておりますA3のカレンダーをご覧ください。こちらは工事カレンダーですが、来年1年間の大鹿村内でのトンネル工事並びに発生土の運搬の予定となっております。色が入っていない日が工事を実施する日、また発生土の運搬を行う日でございます。来年1年間につきましては、全ての土曜日で運休をする計画で予定しております。なお、左下の凡例に記載の通り、冬場の1月から3月、12月の土曜日につきましては、平日の天候、具体的には、平日に大雪などが降って、発生土の運搬ができなかったりということが生じた場合には、土曜日に運行させていただく可能性がございます。また黄色く塗られた調整中というところがございます。こちらにつきましては、小渋線の観光シーズンにあたります。連休の月曜日祝日に発生土の運搬を運休してほしいというご意見をいただきまして、現在、運休できないか検討しているところでございます。次回の対策協議会であるこの調整中のところについて、あらためてご説明をさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

資料の方へ戻っていただきまして、JR東海からのご説明は以上になりますが、最後に10月28日に起きましたダンプの転落事故について施工会社からご説明をさせていただきます。

J V      みなさま、お疲れ様です。本日はよろしくお願いいたします。

この度は、ダンプトラックの転倒事故を発生させてしまいました。みなさまには多大なご心配とご迷惑をおかけし、誠に申し訳ありませんでした。引き続き、ダンプの運転手につきましては安全教育を徹底いたしまして、今後事故がないように進めてまいります。

本日は、事故状況についてご報告させていただきます。まず、ご覧いただきました正面の図の通りでございますが、発生場所につきましては、現場から発生土運搬中の10トンダンプトラックが、左側の平面図の通り、半の沢橋から1キロメートルほど下流側のところ、写真の右上の通りでございますが、右カー

ブのところカーブミラーとガードレールの間を転落したというところがございます。転落状況につきましては、右下の写真の通りのような状況でございます。現在、ダンプトラック等につきましては、撤去を完了している状況でございます。

次に状況につきまして、ご報告いたします。事故の発生は10月28日月曜日の13時半ごろです。運転手につきましては、60代の運転手。事故の怪我の程度としましては、腰椎肋骨の骨折ということで命に別状はなかったのですが、今、1ヶ月半ほど経過し、リハビリして松葉杖を使わないで歩行ができると、幸いそういう状況まで回復しております。事故の状況につきましては、発生土の運搬中のダンプトラックがインター線走行中、運転手が眠気を催したため、袖をめくろうとしたところ、前方確認がおろそかになった結果、先ほどの写真の通り、ガードレールの間隙から高低差約20mのところを車両ごと転落したという状況でございます。ダンプトラック転落後、警察、消防、河川管理者と関係者のみなさまに速報いたしまして、ダンプの燃料漏れ等がないのを確認いたしまして、ダンプに残っている燃料等はポンプで回収して、ダンプの油漏れはないという状況でございました。

対策といたしまして、ダンプトラック運転手には運行ルールの徹底を再教育するとともに、特に体調確認、こちらの方を自己申告だけではなく、毎朝朝礼時にチェックリストを用いて、職長が個々の体調管理をするということ、またお昼を過ぎに眠気を催したということで、昼の運転再開時に、無線等を使用して全運転手に職長から1人1人呼びかけを行うというような対策を進めております。今後、このような事故が発生しないように安全に努めてまいりますので、引き続きよろしく願いいたします。誠に申し訳ございませんでした。

J R 東海 J R からの説明は以上になります。

会長 はい、ありがとうございました。それでは、J R 東海さんの方から一連の説明、運搬に関して、それから、事故の状況も J V の事務所の方から報告をいただきました。この件について、ご質問それからご意見等を承りたいと思いますので、挙手をしていただき、マイクを回しますので、それからお願いいたします。係が参りますので、よろしく願いいたします。

はい。委員さん、お願いします。

委員

すいません、いくつかありますので、続けてご質問させていただきます。

大鹿村内のトンネル工事の進捗状況、最初のところなのですが、青木川工区と長野工区のご説明があったのですが、前回あるいは前々回からいつもどれぐらい進んでいるっていう表示があったような気がするんですけど、進捗、3ヶ月かけてどれだけ進んだのかっていうのは、今回は結構ですので、次回から距離だけでも結構ですから、出していただけますか。JR東海のホームページでは、例えば東京の北品川の工区ですとか、いくつかの工事やっているところは、進捗状況が出ているので。かなり頻繁に書き換えられていますけれども、ぜひ同じような進捗状況の報告をしていただきたいと思います。

それから、21ページの渡場交差点の交通量調査なのですが、結果はこういうことなのだろうと思うのですが、10月22日火曜日の交通量が、この月の一般的な通過車両だったっていう証拠はどこにもないですね。ですので、10月の通過車両は一般的に、この日、10月22日は、他と比べてそんなに極端に少ないとか、極端に多いとかっていうことはなかったと、一般的な通常の通過車両台数でしたよっていうことをどっかに見せていただかないと、少なくとも大丈夫でしたっていうことにはならないと思うので、きちんとその辺はもう少し、何ていうかわかりやすい根拠のある説明をしていただきたいと思います。

それともう一つ、今回、風速を入れていたので、とてもよくわかりましたこういうことだろうということは想定していたのですが、想定以上のデータで、きちんと相関が取れているのはいいと思ったのですが、これ5月からなので、春から夏のデータも、ぜひ生データで、Excelで入れると相関取れると思うんですよね、風速と浮遊粒子状物質は。他の二酸化窒素もやっていただきたいのですが、ちょっとあんまり相関よくないかもしれませんけど。つまり、私、何言いたいかっていうと、今後のことをちょっと考えていて、特に夏場の大気汚染物質の拡散の問題がすごく気になっていて、特に光化学オキシダントの、この辺はちょうど渡場から東小学校までは比較的近いので、すごくちょっと大変気になっておまして、ですので、この辺の相関が取れるようなデータの公開をしていただきたいと思います。

以上です。

会長        はい、ありがとうございます3点のご質問であります。まず、工事の進捗については、データでわかればですけど、できなければ、次回からお願いをしたいということでもあります。後ほどお答えをいただけたらと思います。2点目の10月22日が通常の交通量かというそういうご質問だと思いますのでこら辺の根拠もどうかということでもあります。もしここでお答えできないのであれば、何日間の1週間あたりのものを調査いただいた上で、ということになるかと思えます。3点目については、春から夏のデータこれもということですので、回答できることから、お願いをしたいと思えます。

J R 東海    ご質問ありがとうございます。

      まず、1点目につきましては、今それぞれの切羽の位置がどこにあるかっていうところはあるのですが、ちょっと3ヶ月前との比較っていうところでデータを今持ち合わせておりませんので、どのような形で3ヶ月分の距離ですか、パーセンテージ、約何割という形でお示しできるかということを検討した上で、次回からお示しさせていただければというふうに思います。

      2点目の、10月22日が他の日と比べて、平均的、一般的なものだったのかということにつきましては、基本的にこの日については、無作為に、この日をまず設定させていただいたということですのでございます。今回の我々のダンプの車両台数については、この日が特段少ないというわけでもなく、この10月については一般的な台数、平均的な台数を走っていたというところではございますが、一般車両が、この日、大小だったのかということまで抑えられていないという状況で・・・、押さえていましたので、少し前の方に表示をさせていただきます。

J R 東海    はい、回答させていただきます。

      非常に小さすぎて値が見えないんですが、下半分が昨年の12月に行った交通量調査の結果、上半分が今年の10月となっております。一般車両の通行された台数の実績も当然カウントしておりますので、その台数を見ますと、ともに6時から19時の13時間で3700台ぐらい、昨年の12月も今年の10月も走っていたので、この2日間については、ほとんど一般車の通行台数はあまり変わっていないという状況でした。ただ、その2日間ともどうかという点については、より多い

日があるとか、どうっていうところについてはこの辺りからは確認はできないのですけども、少なくとも昨年今年やった結果については、一般車は同じ台数、同じ程度走っていたということは確認できたという状況でございます。

委員       あのね、13ページに発生土運搬車両台数の実績ってというのがあって、令和6年10月が631.1台って書いてある、これ平均値ですよ。月の総台数を1ヶ月あたりの工事稼働日数で割り戻した数字になっているので、多分、だから、これの1日あたりの台数と、ほぼ同じなのかどうかって、だから、これ、あの変な話、10月の稼働台数全部把握されているわけですから、そのグラフをばっと出してもらえば、それで済む話なんです。だから10月22日はどうだったのっていうことを聞いているだけなので、極端に少ないとか、極端に多いとかっていう状態ではありませんでしたっていう証拠を見せてくださいって、僕言っているだけなんです。

J R東海   失礼しました。10月22日のJ Rダンプの通行時台数としては659台往復でした。ですので、先ほどの、実績の631台よりは若干多い日だったという状況です。

会長       それからもう一点ですけど、要望といいますか、春から夏にかけての風速を示してほしいということですが、これはいかがですか。

J R東海   風速のデータを役場の方からご提供いただければ、対応は可能だというふうに思いますので、何月から何月ぐらいまでのデータが・・・、「4月から8月までで」の声）4月から8月ぐらいまでのデータで。次回の協議会で参考データとしてお示しをさせていただければと思いますので。村さんの方は対応可能でしょうか。

会長       役場の方から提供させていただいて、グラフに入れさせていただきます。関連して、また、それ以外でも結構でありますけれども、J R東海さんの説明全般にご質問等ありましたら、お出しをいただければと思います。

委員　　まず初めに渡場地区代表しまして、今年1年いろんなご協議、要望、議題に対して、実務対応いただいて、誠にありがとうございました。地区の説明会も2回開催していただいたとか、区の説明会も1回、また、村長も出ていただいたとか、新しく環境測定を追加してもらおうとか、渡場交差点周辺の清掃回数増やしてもらおうとか、いろんなことをご尽力いただきました。また、来年もよろしく願いいたします。

　　ちょっと先ほどの説明の中で8ページになりますが、来年の4月以降、松川町への運搬が始まりますということで、ただ総台数は変わりませんということです。なので、単純に小和田と中沢は台数が減るということで理解をしますけれども。そういう理解で、まず、よろしいでしょうか？

J R 東海　はい、ご質問ありがとうございます。基本的にはそのような形になります。あとは優先順位をつけてですね、運搬の方は計画をしていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

委員　　まだ、今の段階では具体的に台数、松川町へ、この内の何台っていうところまでは、まだ出てない？

J R 東海　そうですね。工事の初期段階は多分少なくなってきて、本格的に始まってから、松川の方も台数が多くなってくると思いますが、まだそこまで検討が深度化できておりませんので、松川へどのぐらいの搬出ペースで持っていけるのかっていうところが見えてきましたら、また、協議会を通じて、台数の方はご提示をさせていただければというふうに思っております。

委員　　その分、葛北北林に抜ける台数が減るっていうことだったんで、単純に地区にとってはいいかなとは感じたところです。

　　それと先ほどの事故の件なのですけれども、やっぱり私ども近隣とすると一番恐れている現象なのですよね。理由が理由だったので、いつどこでまた再発するのかって、非常にどういふ対策を打たれるのかっていうのも非常に難しいし、地区とすると非常に不安を抱いてしまうのです。幸いと言っていいのかどうか、たまたま民家とか子供たちが通学しているところに突っ込んだっていう話ではなかったのですけれども、こういう現象が起きてしまうといつ起きても

って考えてしまうのですよね。ぜひ、二度とこういったことのないような何か抜本的な対応をしっかりとっていただいて、一番恐れられていることですので、どうかそのところはよろしくお願いをしたいと思います。

会長 要望として受けていただきたいと思います。先ほど事故に関しては、朝のチェックリストによる点検、それからお昼でも順次点検をやるということで対応してくださるようですので、徹底をお願いいたします。

他にありますか？

それでは、もし言い忘れがありましたら、全体でまた時間を取りますので、そのときにお出しをいただくとして、次に県道工事関係についての説明をお願いいたします。最初に飯田建設事務所さんから主要地方道松川インター大鹿線の改良事業等について、これについての説明をお願いいたします。

飯建 みなさんこんばんは。日頃より、長野県の建設行政にご理解とご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。

それでは、私の方からは松川インター大鹿線の改良工事の状況等について、ご説明をさせていただきます。着座にて失礼いたします。

それでは、資料2、主要地方道松川インター大鹿線道路改良工事位置図をご覧ください。順を追って、ご説明させていただきます。

左側から順にご説明させていただきますが、まず、①葛島につきまして、こちらにつきましては前回と同様引き続き関係機関と協議をしつつ、検討を進めているところでございます。

②道路改良工事二軒屋につきましては、今年度現道拡幅工事につきまして、前回12月以降に着手する予定と申し上げましたが、大変申し訳ありませんが、入札手続きに遅れが生じまして、年明けの1月から着手する予定となっております。

続きまして、③道路改良工事半の沢でございます。資料下段に11月に撮影した写真を掲載しております。現在、盛土工事を進めている状況でございます。11月末時点での仕上げの量は、ソイルセメントによる盛り土が約18万1000立米、普通土による盛り土が3万1000立米となっております。ソイルセメント施工量ベースで約79%の進捗率となっております。

④四徳大橋西につきまして、前回ご説明した通り、こちらにつきましては、現在の交通への影響が少なく、早期に効果が発揮できる局所的な拡幅を検討しておりまして、現在、詳細設計に着手したところでございます。

⑤道路情報提供設備につきましては、西下トンネルおよび東山トンネルの道路情報カメラの接続に関して進めておりまして、前回の説明で11月末に完了する見込みとお伝えしましたが、現在最終的な調整に時間を要しておりまして、年内には施工が完了する見込みとなっておりますので、もう少しお時間を頂戴いたしたいと考えております。

⑥落合トンネルにつきまして、こちらは7月にトンネル本体の掘削に着手しまして、引き続き、本体掘削を進めているところでございます。現在、中川村側の抗口から400mほど進んだところでございます。

その他の工事としまして、橋梁補修につきましては、現在施工中であります。片側交互通行等により、ご不便をおかけしておりますが、ご理解とご協力をお願いします。また、今後4ヶ所ほど舗装修繕工事を予定しております。施工は春以降となる見込みでございます。

続きまして、資料2-1、松川インター大鹿線道路改良工事の二件屋の資料をご覧ください。先ほどご説明した通り、工事着手が1ヶ月ほど遅れておりまして、来年の1月以降に着手する予定となっております。工事が始まりましたら、交通規制等でご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。工事の期間以外の工事概要等につきましては、前回と同様の資料となっております。

私の方からの説明は、以上となります。

会長           それでは続きまして、県道北林飯島線、それから伊那生田飯田線との交差点の関係でございますが、伊那建設事務所さんお願いいたします。

伊建           はい、みなさんこんばんは。北林飯島線と伊那生田飯田線についての状況を報告させていただきます。着座にて失礼します。

まず資料3を見ていただきまして、①の北林島線の路面標示について説明させていただきます。こちら、路面表示がわかりづらく、修正してほしいというお話でして、先週12月12日の木曜日に、地元の方と駒ヶ根警察署の交通課の方、伊那建設事務所の整備課合同で現地確認を実施させていただきました。そ



ちらでも意見もいただきまして、修正を反映させていただきました。それを踏まえた引き直しの方を、なるべく早く実施する予定になっております。また、実施する予定なのですが、雪や気温に影響され、これから雪が降る季節になりますので、それによって遅れる可能性もありますので、ご承知おきください。

次に、図の②の北林飯島線の北林橋周辺の道路拡幅計画についてです。こちらは12月に地形測量と道路計画の予備設計の発注を予定しております。

次に図の左側の③の国道153号の田島交差点における舗装工事、切削オーバーレイになります。こちらは夜間施工で、12月23日の月曜日に切削を予定しております。次の日の24日火曜日に舗装と区画線の設置を予定しております。こちら当日の天候によっては変更する可能性があります。現在そのような予定になっています。

次に下の図の④の伊那生田飯田線のガタついたグレーチングです。こちらの方は、11月中旬に新しいものと交換させていただきました。

伊那建設事務所からは以上になります。

会長 はい、ありがとうございます。それでは両事務所からの説明が終わりましたので、この件につきまして、何かご意見等、ご質問も含めてお受けしていきたいと思えます。

委員 お世話になります。12日の白線の書き換えの件で立ち会いしていただいて、ありがとうございます。お世話になりました。これで書き直してもらえれば、見やすいラインになるんじゃないかとは思いますが、よろしくお願ひします。

ちょっと何点かお願いします。竜東線から北林線に入る交差点なのですが、相変わらずアスファルトが穴開いて、横断歩道の白線も消えている。交差点から下へ来たところ、道路を横断して工事したみたいなのですが、ダンブが通ってだいぶ、アスファルトの補修はしてあるのですが、陥没がひどくて。また、補修は何回か、アスファルト上から打ったような状態ではありましたが。この間、葛北総会がありまして、「総代は意見をしているのか」と言われてしまったので。ちょっとすいませんけど、直すのなら早めに直していただきたいと思えます。

この竜島線と北林飯島線の交差点に関して、相変わらず、ダンプのタイヤの跡が、かなり大回りしてセンターラインも消えているような状態なので、もし、これが内回りをダンプができないのなら、何回か前に渡場の総代さんから提案してもらったと思うのですが、ルートを反対回りをもらうと、下から登って行って、渡場の方へ曲がって行けば、ダンプも大回りできるかと思えますし、一回、ダンプは下から登って行ったときに、止まれになるので、あのよう大回りしなくてもいいんじゃないかなというイメージなのですが、もし、白線を消えるほどダンプが大回りしていくようであれば、ルートの反対回りの検討もしていただきたいと思えます。

それともう一点、小和田のダンプの出入口の両サイド、土手になるのですが、そこら辺、もう白い砂でずっと色が変わるほど、砂が舞ってきているのか、もう何年も続くようであれば、トラックのタイヤについてものが、道まで出てくるのか、荷台から出ているのかわかりませんが、それを渡場の交差点を清掃しているってことなので、渡場の交差点から小和田のダンプ出入口のところまで、年に1回ぐらいは清掃してもらった方がいいのかなというイメージなのですが、よろしくお願ひします。

会長        その件について水道ですから、村の施工でありますので、ちょっと先にお答えしますので。それから三共の交差点も、舗装し直してあったようですが、その話と。タイヤの跡については、前回も出ていますが、これはJR東海ではないというふうに思っているのですが、ちょっとまたそのところをどうかお話を願ひします。最初に村の方からお答えをいたします。

幹事        お話のありました県道北林飯島線の横断ですが、村の方で施工させていただきました水道の横断の沈下になります。以前協議会の中で、ご指摘いただきまして、その後補修を行いました、確かに今、委員さんおっしゃいますように沈下が進捗しておりますので、早急にアスファルトの修繕を行って、復旧をさせていただきますと思えます。大変ご迷惑をおかけして、申し訳ありません。

会長 三共の交差点のところの課題については、J R東海さん、これ前回も出ていたかと思うのですが、ちょっとここら辺についていかがかなと思います。

J R東海 まず、竜東線と北林飯島線の交差点のセンターラインをはみ出す話については、隅切りも行っておりまして、基本的にはセンターラインをはみ出さずにダンプとしては曲がれるという状況でございます。センターラインはみ出さないようにということで、我々の方も、指導しておりますので、基本的にはないと思っておりますが、あらためて指導の方は再度徹底していきたいというふうに考えております。

また、白線が消えているということですか、舗装が傷んでいるという点につきましては、先日、穴が空いているところについては穴埋めの方をさせていただきました。来年の2月にアスファルトの打ち替え、横断歩道のラインの引き直しの計画をしており、そちらの方でまずご確認をいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

会長 関連して、国道153号から小和田のB工区に運搬しているあの辺りに、国道のところには白いっていうか、運んでいるタイヤについた砂といいますか、委員さん、そのことですよね。国道153号の小和田の出入りのところでしょうか？

委員 はい。

会長 あれ、ちょっと対応はどういうふうにされるのか。J R東海さん？

J R東海 まず、現状の方を我々の方も確認いたしまして、実際に盛り土を発生と受け入れていただいている事業主体の方にも一緒に確認し、ご相談していきたいと考えております。まずは現状を確認させてください。申し訳ございません。

会長 すいません、小和田の土地改良は村が事業主体でありますので、今の問題は

J R東海だけの話ではありませんので、一緒に協議をさせていただいて、対応を考えていきたいと思っております。

あとはいいでしょうか？

委員 はい。すいません、何点かお願いします。渡場も先日、総会がありまして、毎回ですけど、リニアの話が必ず出ます。それだけ非常に関心が高い地区なのですけれども、そんな中でちょっと要望が出ていますので、この場を借りてお願い申し上げます。

まず、渡場交差点、大林建材さんの方から松川へ抜ける、そこが、荷を積んだダンプが一番頻繁に通るので、道路が陥没というか、轍になりやすいということで、とにかく、そこはこまめに見てもらって、ひどい状態になる前に掘削して、平らに均してほしいという要望がありました。「特に足腰の弱い方とか、足の上がない方、年配の方っていうのはちょっとした段差でもつまずいちゃうんで怖いよ」という具体的な意見がありましたので、ぜひそこら辺は早め早めの対応をしてもらうようお願いをしたいと思います。

それとちょっと別件なんですけどよろしいですかね。

会長 関連かと思しますので、どうぞ。

委員 渡場の交差点、いろいろな形で、今、清掃やっています。私達地区でも3回ほどやってはいるのですけれども、この前ちょっと村の方から資料をいただいて確認をさせてもらったのですけれども、1・2・3月と5・6月と11月が、手が入っていない月でありました。ということで地区の方から、「とにかく月1回は何らかの形で清掃をお願いしてくれ」ということで言われておりますので、ぜひちょっと要望させてもらいたいと思います。

それと、今年も2回ほど説明会を開いていただいて、葛島の区でも1回開いていただいて、その中でやっぱり一番多く出てきている問題が、連続走行、連なって走ってしまうので、非常に音が消えないと。「家の中でテレビを見ている、ダンプが連なって走ると音が聞こえない」とか。区の説明会のおきも話があったのですけど、竜東線から北林飯島線へ左折するとき、ウインカーを出すのですけれども、「ダンプが何台も続いているとウインカーの音が非常に

うるさい」というような話も具体的に出ています。ということで、非常に連続走行にみなさん不安を抱いているといえますか、思っているのも、なんか、来年以降こんな形で、というのを少しでも進展できるように検討していただいて、何か報告していただければ幸いかなと思いますので。今、結構、その問題が大きいんじゃないかなというふうには感じています。

それと、それ以外に要望やお願いを出したことに対して、「協議中」だとか「協議していきます」という回答を何件がいただいておりますが、この前の総会でも、「その後、進展か何か、話があったのか」と言われました。とにかくそういった、「協議していきます」とか、そういう内容について、これも来年で良いのですけれども、「今ここまでこんな話になっています」とか、結果はまだ先なら仕方ないので、経過報告みたいな形でもいいので、「これについてはこうですよ」という報告が、ちょっと地区へフィードバックをしてもらわないと、地区の衆も「言っぱなしじゃないか、言ったきりで何にも駄目じゃないか」という話で、いつも終わってしまっているのも、それだけはないように、お互いに連絡取りながら、ちょっとそんな形でちょっとお願いをしたいと思いますので、よろしくどうぞ。

会長        すいません、清掃の関係が出ておりますけれども、県の方からお答えできますか？

飯建        渡場の交差点の関係、前回、その前の協議会でもお話をいただいております。私ども道路管理者として、できる範囲の中で今までやらせていただいておりますけど、この路線につきましては、特定の事業者が多く運行されているということの中で、どうしても、事業者の方にも清掃といったことでご負担をいただきたいと考えております。JR東海さんについて申せば、村との確認書の中でも、清掃取り組むというようなこともお約束いただいておりますので、まずは私どもでもできる範囲ではやらせていただくということでございますけれども、事業者の方での対応もご検討いただきたいということで、村さんの方で様々な事業者の方に調整をいただきまして、何月にどの方によっていただくかっていうところの整理をしていただいておりますので、その辺、村さんの方からお願いできればと思います。

事務局 清掃についてですが、まず、小渋砂利運搬安全連絡協議会の方を中心に、先日、安全講習会があったんですけれども、その場で、積荷をこぼさないようにということをしていただく、ということも多くの方の前で説明をさせていただきました。これに関しましては、毎年口を酸っぱくするほど言い続けていきたいと思っております。

清掃の方は、令和7年度からになるかと思うんですけれども、毎月、小渋砂利の連絡協議会に加盟されているところが中心になりますけれども、各団体に、各月、何かしらしていただくという形と、飯田建設事務所さんの方には今年の路面清掃車を2回入っていただいていますので、最低そこは入っていただくような形で調整しております。調整結果の方は、新しい総代さんの方に連絡を差し上げたいと思います。よろしくお願いいたします。

会長 それから渡場の交差点のところのアスファルトが寄るっていうか、でこぼこになるっていうことでしょうか？

委員 そうですね、どうしても。

会長 このことについては、ご意見として出ていますので、道路管理者の中でも、またJR東海さんのことももちろんありますので、ちょっと持ち帰らしていただいて、協議というか、課題とさせていただきます。

それからもう一つ要望が出されているのだけど、あの経過について今どうなっているのかぐらいは、というお話です。特にこのことにつきましては、運行経路を逆回りにしろとこういう要望が非常に強くありましたので、そのことも含まれているのかなと思っております。今、松川町の理事者それから警察署、こちらの方にお話は進めておるところでありますので、後日、今の段階でのまとまったところ、どこまでどういう経過になっているのかっていうのをまとめて、後日みなさまにお知らせをしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それから連続走行の話なのですけれども、すいません、JR東海さん、よろしくお願いいたします。

J R東海 連続走行につきましては、ご心配とご不安が募っているということで誠に申し訳ございません。

我々では、先ほどお話ありましたJVのみなさんと協力しまして、出発の際は、きっちりと時間をかけて出るように指導しておりますし、実際にそれを確認しているところでございます。小渋線を通っている際に、どうしても一般車の方を優先し、追い抜いていただいたりということであったり、また他の事業者様の砂利組合やいろんな事業者様いらっしゃいますが、その方たちとの出発というのはなかなか調整ができないというのが本音のところでございます。その際、例えば大鹿の方から降りてきたものが、ちょうど渡場の交差点で連続になってしまうということだと実態としてはそのように考えております。非常にご不便おかけしておりますが、我々としてはさらに出発時間を調整して、等間隔に行くように再度続けて指導してまいりたいと思います。

またウインカーの話は、ちょっとなかなか難しいところがございますが、ウインカーというのはおそらく例えば左に曲がりますとかの音声が出たりすると思うんですが、ウインカー自体は安全のために装着されているものだと認識しております。大型車ですので、死角が必ずあると、それをその際に歩行者や自転車の方が巻き込まれないようにということで音も出ているというものと認識しております。なかなか、そこに関しては、どちらを取るかというのは難しいんですが、安全第一ということで進めてまいりたいと考えております。

もう一つ、ちょっと先ほどのお話に戻りますが、村の方からもお話ございました清掃に関して、我々もご要望を受けておりますので当然のことながら、ご協力させていただきまして、うまく清掃の間隔が等間隔になるように村と調整させていただきましてご協力いたしたいと思っておりますので、何卒ご理解いただきますようよろしくお願いいたします。

以上でございます。

会長 ありがとうございます。他に全体を通してでも結構でございますので、ご意見、ご要望ありましたら、お出しをいただければと思います。

委員　　まずもって、各地区の総代さんを初め、地区のみなさまには何かとご協力いただきましてありがとうございます。また、村長を初め、役員のみなさま、村議のみなさん、みなさまにもご尽力いただきましてありがとうございます。

私これで総代の職を退任してしまうので、挨拶することもないので、でも、まだ私も小和田地区住民でありますので、工事関係者のみなさまには、とにかく安全第一を目標にさせていただいて、先ほどもありましたけども、粉塵のことだか、これから小和田地区は多分、一番問題が出てくるかと。風向きの関係とかありますので、そういった細かいところは、村田さんを通じて、また、地区での説明会というものを開いてもらえたりすれば、もっとリアルな質問とか出てくるかと思っておりますので、その辺、また、よろしく願いいたします。

いろいろ言うこともありませんが、ちょっと無知なので、よくわかりませんが、我々も歩み寄って協力してこの一大事業、大きなプロジェクトを成功させていければと思っておりますので、よろしく願いいたします。

会長　　ありがとうございます。事業主体は、土地改良は村でありますので、地区のみなさまにわかるようにいろいろ、工事も含めて課題もあろうかと思っておりますので、ぜひそういう事業説明の機会を設けるよう考えます。どうぞよろしく願いいたします。

他にいかがでしょうか？特に無いようでございますので、以上を持って、協議は閉じたいというふうに思います。事務局に返しますので、お願いいたします。

事務局　　その他ございますけれども、特に事務局の方からその他ございません。次回につきましては、これまで通り、3ヶ月1回くらいのペースでお願いしたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、閉会の挨拶を副会長よろしく願いいたします。

副会長　　みなさん、一日の仕事の後、お疲れの中、夜の会議ということで、大変貴重なご意見をそれぞれみなさんからいただきました。今後とも、工事を担当されているJR東海のみなさん、県の関係のみなさんに、また、お願いいたしまし



て、何とかこの事業が前に進むようにと思いますので、よろしくお願ひします。今日は大変ご苦勞様でした。ありがとうございました。